

剣道を通して学んだこと

松原剣道 小学五年 三浦 陽向

ぼくは、剣道をなりたい始めて一年になりま
す。なりたい始めたきっかけはお母さんが中学
生の時に剣道をやっていて、その経験から剣
道はとても良いものだからとやってほしいと
言われたからです。

最初は正直おもしろそうとは思わなかった
けど、お母さんがよろこぶ顔が見たくて始め
たので、なんでみんな日マのけい古をがん

ばるのかな」と思っていました。試合に出る
ようになり、負けてばかりいたので試合をや
る大会もきらいでした。でも初めて一本とれ
た時に、「この時のためにみんなけい古をが
んばっているのか！」と思いました。その試
合は近くの剣友会との合同けい古の時に同じ
五年生の子を相手に戦いました。相手がぬけ
ていったところを追いかけて面を打ちました。
初めて勝てて、お母さんはうれしくて泣いて
いました。それから、まだまだみんなに負

けてばかりいます。が少しずつ勝てるようになってきたので声の出し方を考えたり、自分のできることからやっつけていこうと思えるようになりしました。

他にも剣道を始めたことで苦手だった運動も少しずつできるようになってきていることに一年経った今体力テストで気づきました。あく力の数字が九ぐらいだったのが、十五まで上がった。いて自分でびっくりしました。日々のけい古は苦しくてつらいと思うことが

たくさんありますが、自分で気づかないうちに体力がついたりせ中がびんとなるように心がけていることに気づきました。

外から見える部分以外にも、剣道から学んだことはたくさんあります。ぼくの入っている松原剣道では、年が上の子が自分より小さい子のめんどうをみます。ぼくは、四年生になつた時に入団したので、高学年からでした。が、五年生と六年生の先ばいたちがやさしく色いろと教えてくれました。ぼくは三人兄弟

の一番上の兄で弟が2人います。上の子が下の子のめんどうをみたり、やさしくするといふことができていたかというところ、できてなかつた方がなと思います。松原剣道に入つて、弟たちのめんどうをもつとよく見るようになったりました。まだ団内では自分より年が下の子たちのめんどうを上手に見られていないですが、先ほどいたちのやつていることをしつかり見てがんばつていけたらなと思います。

また、ぼくの小学校では、あいさつをきちんとしていまして、あいさつをきちんとしていまして、剣道を始め、大きな声を出してあいつをするようになりました。剣道を始めめる前と今とでは色々なことへの向き合い方がちがうな、と振り返つて思います。

剣道という武道を学んで、ただ毎日を過ごすだけの日々だと学べないきん張感というものも知ることができました。学校の発表や係での仕事などでもきん張しますが、その時と

はまたちがつたきん張感があります。試合の時は、一歩会場に入ると、とてもドキドキして心ぞうが口から出そうになります。試合が始まるとむ中でなんとか勝てるようにがむしや分に声を出します。竹刀を合わせてどちらが先に打つか打たれるか、そのきん張感のある時間も剣道を始めなければ知らなかつたことだと思えます。

これからもお母さんのよろこぶ顔を見るためにがんばっていきたいと思えます。